

えびの市議会だより



平成22年12月定例会は11月30日開会

議会日誌

〔6月〕

18日 6月定例会閉会・全員協議会
24日 市議会だより編集委員会

〔7月〕

1日 市議会だより編集委員会(7日・12日)
6日 南九州中部市議会議長会臨時議長会(人吉市)
8日 宮崎県市議会議長会臨時総会(宮崎市)
9日 総務教育常任委員会
15日 基地対策調査特別委員会
22日 陸上自衛隊第24普通科連隊・えびの駐屯地存続・増員増強に伴う西部方面総監部並びに第8師団への表敬・要望活動(熊本市)
27日 南九州中部市議会議長会議員研修(人吉市)
28日 西諸広域行政事務組合議会定例会(小林市)
29日 陸上自衛隊第24普通科連隊・えびの駐屯地存続期成同盟会の防衛省等への要望(29日・東京都)
29日 宮崎県市議会議長会臨時総会(宮崎市)

〔8月〕

2日 議会運営委員会・8月臨時議会・全員協議会
5日 宮崎県市議会議長会口蹄疫中央要望(6日・東京都)
10日 総務教育常任委員会
16日 産業厚生常任委員会
17日 宮崎県後期高齢者医療広域連合議会定例会(宮崎市)
18日 川内川改修促進期成会による川内川河川事務所への要望会(薩摩川内市)
20日 基地対策調査特別委員会管外調査(21日・広島県呉市)
24日 全員協議会
26日 VLF中央要望(25日・東京都)
31日 川内川改修期成会による九州地方整備局への要望会(福岡市)
議会運営委員会

〔9月〕

3日 9月定例会開会

8月
臨時会

平成22年度一般会計は 3,772万9千円を追加し 総額104億5,411万円に

口蹄疫対策予算の追加

これまでに口蹄疫対策関係、経営支援関係予算などに4億5000万円余りの補正予算を計上しておりますが、更なる支援が必要であるとの判断から、仔牛価格安定対策事業奨励金486万円は、仔牛の購買又は、自家保留推進のための奨励金として一頭当たり一万円を助成するもの。商工会補助金3286万円は、口蹄疫の発生により影響を受けた市内工商业者への支援と市内の経済活性化を図るため（1綴り一万円分の商品券を購入すると2000円分の割増額）のものです。

県内で発生した口蹄疫は、四ヶ月経過し、やっと終息宣言が出されましたが、経済的にも精神的にも多大な損害を受けました。

市民の皆様の元気と勇気と希望を一日も早く取り戻していただきたいとの思いから、市制40周年記念事業などと組み合わせ、口蹄疫復興事業（イベント）補正予算が組まれました。

下記参照

口蹄疫復興イベント事業一覧

事業名	内容	実施時期
田の神さあの里産業文化祭 (顔晴れ!えびの復興まつり)	今回、農畜産物の消費拡大を含め、JA・市・商工会・物産振興協会・観光協会などで開催。	H22.11.20 ~ H22.11.21
がんばろう! えびの花火大会	花火大会を他のイベントと組み合わせて実施します。	H22.11.27
復興支援 高校女子バレーボール大会	九州各県女子バレーボールチーム参加による大会。県内外の参加者を宿泊に結びつけます。大会終了後、市内食材を使った合同焼肉大会を実施。	H22.10.9 ~ H22.10.11
がんばるえびの市 物産フェア	えびの市の物産を県外で販売することにより、食の安全・安心をPRします。	H22.10.15 ~ H22.10.17
地域芸能&お笑い大会	身近なところの地区住民が集い、お笑い芸人と住民が一緒になって芸を披露し合い、笑うことで市民の活力を奮起します。	H22.11 ~ H22.12
復興支援京町温泉フェア	入浴料を割引し、市内外の温泉客の集客を図ります。	H22.10 ~ H23.3
学校対抗 10人11脚競争	子どもたちが一緒になって取り組む機会として学校対抗の競技を開催します。	H23.1
自治公民館対抗グラウンド ゴルフ大会	スポーツを通じた地域内での異世代間の交流の場として、グラウンドゴルフ大会を開催します。	H23.1
プレミアム商品券	市内工商业者への支援と市内の経済活性化を図るため、2割の増額を加えたプレミアム商品券を発行します。	H22.8.9 ~ H22.12.31
焼肉スタジアム	焼肉による肉・野菜の消費拡大とえびの市民を元気にすることを目的に開催したものです。	H22.8.28
口蹄疫合同慰霊祭	口蹄疫の発生により犠牲となった家畜の慰霊とともに今後の復興に向けて口蹄疫合同慰霊祭を実施したものです。	H22.8.28

◆ イベント総額 54,304,000 円です。

平成22年度一般会計予算は 2億5,116万円を追加し

総額107億527万円に

9月 定例会

国民健康保険特別会計 6,866万7千円を追加し	総額36億6,163万円に
後期高齢者医療特別会計 326万円を追加し	総額5億7,040万1千円に
老人保健特別会計 463万6千円を追加し	総額520万4千円に
介護保険特別会計(保険事業勘定) 9,710万6千円を追加し	総額27億4,663万6千円に
観光特別会計 28万3千円を追加し	総額3,464万8千円に
水道事業会計 400万9千円を追加し	総額3億3,181万8千円に
病院事業会計 419万7千円を減額し	総額10億2,132万円に

平成二十二年九月定例会は、三日から十七日まで十五日間開かれました。議案14件、報告4件、陳情2件、決算認定8件のほか、委員会提出議案1件と意見書案1件及び決議案1件が提出されました。決算認定6件は閉会中に審査します。

●一般会計の補正の主な歳入は、児童扶養手当国庫負担金445万円、父子家庭を対象とする法正に伴うもの。インフルエンザ予防接種事業費県補助金612万円、ふるさと雇用再生特別基金事業費県補助金762万円、農地制度実施円滑化事業費県補助金580万円、鹿捕獲促進事業県補助金175万円、介護保険特別会計繰入金274万円、財政調整基金1億2265万円、繰越金2億7872万円など。

●主な歳出は、総合長期計画策定委託料249万円は、第5次及びの市総合長期計画策定に係る基礎資料収集一式、市民アンケート調査を市民を対象に行うもの。財政調整基金積立金1億4000万円は、二十一年度決算に係る剰余金の2分の1を積立てるもの。繰出金144万円は、第5期介護保険事業計画アンケート(65歳以上が対象者)調査など、委託料762万円は、活力あるふるさとづくり事業で、地域の観光資源や特産品開発、人材育成と雇用などを目的とするもの。鹿捕獲促進事業補助金390万円は、農林作物被害を

防止するため個体数調整の捕獲を実施するもの、住宅リフォーム促進事業補助金500万円は、自己の居住する住宅を市内の施工業者を利用して修繕・補修・改築及び増築の工事を行う場合にその経費の20%(上限20万円)を補助するもの。白鳥温泉下湯工事請負費2069万円は、給湯施設改修、温泉タンク防水改修工事など。市民体育館請負工事費209万円はフェンス取替工事。土地購入費1億円は、物産館予定地として購入するもの。

●国民健康保険特別会計の補正の主な歳入は、国庫補助金262万円は、市立病院の医療機器導入に対する補助金、療養給付費等交付金4555万円は、平成二十一年度療養給付費等の精算に伴うもの。繰越金1429万円は、平成二十一年度決算剰余金のうち留保財源を繰越すもの。主な歳出は、償還金2414万円は、平成二十一年度健康保険療養給付費等国庫補助金、出産一時金国庫補助金、特定健康診査、保健指導県費負担金などの精算に伴うもの。

●の主な歳入は、繰越金143万円は、平成二十一年度剰余金によるもの。療養給付費等負担金精算償還金2010万円は、平成二十一年精算に伴うもの。

●主な歳出は、一般会計繰出金345万円は、二十一年度決算剰余金及び療養給付費等負担金償還金を一般会計へ繰出すもの。

●介護保険特別会計の補正の主な歳入(保健事業勘定)は、支払基金交付金352万円は、平成二十一年度介護給付費の精算に伴うもの。繰越金8723万円は、平成二十一年度決算によるもの。主な歳出は、償還金4017万円は、平成二十一年度介護給付費国・県負担金、地域支援事業費国・県交付金の精算に伴うもの。基金積立金4784万円は、二十一年度保険事業勘定決算剰余金によるもの。

●水道事業会計の補正の収益的収入9万円の減額と収益的支出383万円は給料、法定福利費、手当など人事異動に伴う増減です。

●病院事業会計の補正の収益的及び支出の医業外収益62万円の減額と医業費用619万円の減額は給料、手当など人事異動に伴うもの。資本的収入及び支出262万円は、医療機械器具購入費のため一部を国保調整交付金で助成されるものです。

9月定例会における議案等の審議結果

会期9月3日～9月17日（15日間）

1. 議案等

番 号	件 名	審議結果
報告第 8号	平成21年度えびの市継続費精算報告書について	—
報告第 9号	平成21年度えびの市健全化判断比率について	—
報告第10号	平成21年度えびの市資金不足比率について	—
報告第11号	専決処分した平成22年度一般会計予算の補正(第7号)の承認について	承認
議案第54号	工事請負契約の締結について	原案可決
議案第55号	えびの市国民健康保険条例の一部改正について	原案可決
議案第56号	えびの市林業振興審議会設置条例の一部改正について	原案可決
議案第57号	市道の路線認定について	原案可決
議案第58号	平成22年度一般会計予算の補正(第8号)について	原案可決
議案第59号	平成22年度一般会計予算の補正(第9号)について	原案可決
議案第60号	平成22年度国民健康保険特別会計予算の補正(第2号)について	原案可決
議案第61号	平成22年度後期高齢者医療特別会計予算の補正(第1号)について	原案可決
議案第62号	平成22年度老人保健特別会計予算の補正(第1号)について	原案可決
議案第63号	平成22年度介護保険特別会計予算の補正(第2号)について	原案可決
議案第64号	平成22年度観光特別会計予算の補正(第2号)について	原案可決
議案第65号	平成22年度水道事業会計予算の補正(第1号)について	原案可決
議案第66号	平成22年度病院事業会計予算の補正(第2号)について	原案可決
議案第67号	平成22年度一般会計予算の補正(第10号)について	原案可決 (10対3)
認定第 1号	平成21年度一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 2号	平成21年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 3号	平成21年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 4号	平成21年度老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 5号	平成21年度介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 6号	平成21年度観光特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 7号	平成21年度水道事業会計決算の認定について	認定
認定第 8号	平成21年度病院事業会計決算の認定について	認定

2. 請願・陳情

番 号	件 名	審議結果
請願第 1号	日本中央競馬会場外勝馬投票券販売所「ウインズ」の誘致に関する請願	継続審査
請願第 2号	飯野駅前文化会館の跡地払い下げに伴う請願書	継続審査
陳情第 4号	永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書の提出に関する陳情書	不採択
陳情第 7号	子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成を求める陳情書	採 択
陳情第 8号	細菌性髄膜炎ワクチンの公費による接種費用助成を求める陳情書	採 択

3. 委員会提出議案等

番 号	件 名	審議結果
委員会提出 議案第1号	えびの市議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について	原案可決
委員会提出 意見書案第3号	永住外国人への地方参政権付与の法制化議論に対する意見書(案)	原案可決
委員会提出 決議案第1号	霧島演習場における日米共同訓練に関する決議(案)	原案可決 (10対3)

一般質問

九月定例議会の一般質問は、12人の議員が質問に立ちました。今回は、口蹄疫の復興対策、日米共同訓練等について、活発に議論されました。

なぜ今、えびの市での日米共同訓練か

池田 孝一 議員

質問 本日(九月八日)、宮日新聞のトップに霧島演習場での日米共同訓練実施が載り、議会開会に先立ち市長から同趣旨の報告を受けた。昨日、防衛省幹部が来庁したとのことだが、これは「通告」だったのか。

市長 日米共同訓練の「お知らせ」であり、これに対し特に意見を求めたりする場面は無かった。

質問 新聞での市長談話にはがっかりだ。市民の安全、安心を預かる市長の言葉にしては冷たいコメントだ。新富町長は訓練実施にコメントで不快感を表している。口蹄疫からの復興の最中であ

り、前回の訓練を踏まえ、先方から意向を聞かれずとも「迷惑である」と伝えてよかったのではないかと。

市長 突然のお知らせであり、現時点では首長として判断材料が少ないので、今後情報収集する。

質問 なぜ今回、12年ぶりにここで訓練するかは聞いていないか。

市長 訓練場所は5つの方面隊が毎年持ち回りで実施している。

質問 普天間基地の移転に伴い、米海兵隊の訓練地が必要なことが背景にあるのではないか。

市長 関連は無いと聞いている。

遊休財産の早期処分を

宮崎 和宏 議員

質問 市内には利用されていない遊休土地がかなりある。遊休土地の活用計画を立てるべきと六月議会で質問しているが検討されたものか。

財産管理課長 旧やたけ荘跡地、飯野駅前文化会館跡地など10ヶ所については、売却するなど計画を立てたところだ。

質問 飯野駅前区から請願が出



未利用地状態の旧文化会館跡地

されている。土地の払い下げの案件が全然前に進んでいないようだが。

市長 早急に解決したいと思いますが、議会での採択がないと出来ないところです。

質問 当時の確約書の中で、いつまでと期日はなく、価格の提示もないが確約書は有効なのか。

市長 専門家に相談しましたところ、有効だそうです。

質問 市営住宅で家の周りに樹木など植込んで近所に迷惑していると聞く。管理はどうなっているのか。

財産管理課長 以前、係で注意しているのですが、聞いてもらえ

なかった。今度は早急に除去させます。

質問 口蹄疫義援金の総額と配分方法は。

企画課長 県、市合計8724万円です。全畜産農家に一律11万5千円ずつ配分しています。

駅舎文化財指定へ申請

蔵園 晴美 議員

質問 日米共同訓練が報道されたが訓練等の正確な情報収集に努め地域住民、市民に不安が発生しないよう細心の注意を払い正確な情報を伝えていただき、日米共同訓練が遂行されることを願う。通知をどのように受け止めたか。

市長 賛成・反対といろんな形で運動、要望など市民の皆様が多角的な考えを持っていてと思う。えびの市に最善な策をとるよう頑張る。

質問 地域で育んできた真幸駅旧加久藤駅の登録有形文化財の登録を提案しているがどのように進めているか。

社会教育課長 必要性は認識している。真幸駅はJR熊本事業所の管轄、駅舎譲渡は無償で、周辺は

買い上げてくれとの回答。文化庁の登録になるかどうか確約が必要ではないかということ、県と文化庁の間で事業的なものを進めている。八月末に文書を文化庁に出した。その後、現場視察に来る。

旧加久藤駅は鹿児島事業所管轄で、駅舎は市で購入して、周辺は税の免除をお願いすると回答。歴史的背景を文化庁に上げて書面審査後、方向性が見えてくる。

覚書をよみがえらせよ！

栗下 政雄 議員

質問 VLF設置覚書履行問題について、えびの送信所を特定防衛施設指定とし、調整交付金の対象にすることは、昭和六十二年八月八日にえびの市議会議長並びに福岡防衛施設局長及び防衛施設庁施設調査官の間で、7項目にわたる海上自衛隊超長波送信所設置に伴う措置についての覚書を締結している。この覚書の締結から今年で23年が経過し、覚書が風化されようとしている。

私は、この覚書締結に関係した当時の福岡防衛施設局長、海上自衛隊佐世保総監部に勤務されてい



海上自衛隊 VLF 通信基地

た関係者の方々と今でも当時のことを話すことが出来る。

したがって、市長、企画課長、基地対策室長はこれらの方々と会って、この覚書締結時のことをよみがえらせる考えはないか。

市長 VLF設置時の覚書の履行については長年の懸案であり、議員が提案されたことは非常に大事なことだと考える。中央要望の際などに同行して頂き、バックアップしてもらえたらと考える。

ワクチン接種の助成を！

外園 三千男 議員

質問 インフルエンザ菌b型感染症(ヒブ)は、保菌者の咳、くしゃみと伴に、鼻やのどから侵入し、そこで繁殖して血液中に侵入し血液を介して髄膜炎、肺炎、喉頭炎など

引き起こすと言われ、新生児期以後のヒブ髄膜炎の発病者は0歳から5歳児未満で国内では毎年約1千人が感染している。その内600人程度が重い細菌性髄膜炎になって後遺症が残る。ワクチン接種は希望接種で一回につき7千円から8千円かかるので、3千円か4千円の助成はできないのか。

市長 財源問題もあるが、県内自治体で実施しているところもあり前向きに検討したい。

質問 妊婦健診の国庫補助金が今年度限りとなっているが、来年度以降の対応は。

市長 14回の健診が受けられることが一番よいが、財政とも協議しサービスが低下しないよう頑張る。

質問 経済的な理由から地上デジタル放送を受信できない世帯への無償給付の状況は。

福祉事務所長 全部で無料取付け世帯の申請が300世帯あり、完了が128世帯、残りは来年七月までに完了すると思う。

姉妹都市締結を

西原 義文 議員

質問 神社原運動公園のトイレは昭和六十年頃設置した。市民から水洗化の要望があるが改修の考えはないか。

社会教育課長 課としては水洗化を考えている。予算的な事もあるので調査をさせていただく。

質問 トイレ改修と駐車場整備の同時整備を強く要望します。

市長 教育委員会でも十分調査されるとのこと、予算要求があった場合は前向きに検討したいと思う。

質問 ベルトン市との交流が平成十五年以後疎縁になっていることだが、長春市と新規姉妹都市の締結の考えはないか。

市長 ベルトン市との姉妹都市締結のこともふまえて、行政指導だけでは姉妹都市関係は長続きしない。市民団体も一緒になって交流を進める。今年は、長春市から高校生が170名弱。来年は200名近い高校生が来る。一つは大きなきっかけになると思う。長春市との交流関係を深めて姉妹都市締結が見えてくるのでは。先

に姉妹都市締結するのではなく、長春市との交流を友好的に進めていきたい。まず日章学園さんを通じて深めて行く方策を考えたい。

口蹄疫及び環境整備を図れ

竹中 雪宏 議員

質問 口蹄疫ウイルスの侵入経路と県内発生の解明は、未だに結果が出ていない現状。我がまちは自分達で守る事を前提に粗飼料の確保と消毒の徹底が最重要と考える。防疫の強化と意識の向上を更に凶る観点から、発酵粗飼料「ラッピング」による収納の確立とセンサーライトを利用した自動噴霧機の設置に補助金を支出して推進する考えはないか。

市長 大変重要なことだと思っ

ているので、全体的な粗飼料の確保の観点から検討を進めて行く。また、自動噴霧機についても研究して一番良い形で結論を出す。

質問 復興支援対策について、九月セリ市は関係機関の購買者対策が構築されており、高値で推移したが、後半が懸念されるので本市の発動支援単価を変更する考え

はないか。また、二十三年度は市民税を一律10%カットして支援を行う考えはないか。

市長 現時点では検討していないが研究する。市民税の10%カットは難しいのではないかと。

質問 長江川のヨシ竹及び土砂を早急に撤去する考えはないか。

市長 緊急の事態を要していると思うので、県土木に強く要望する。

消毒の日の設定を

上原 康雄 議員

質問 えびの市でも4例の口蹄疫が発生し、多く被害を受け、その被害は多方面に及び計り知れない。二度とえびの市から口蹄疫を発生させないために、防疫体制の強化が重要である。畜産農家や市民の防疫に対する意識の低下が心配される。そこで毎月一回又は、二回消毒の日を定め、無線広報等で市民に協力を求める事で、かなりの効果があると思うが市長の見解は。

市長 宮崎県でも防疫の日を定め、広く県民に協力を求めていく計画がある。えびの市でも、消毒などの防疫に対する市民の意識低下を防ぐために最大限努力をする。

質問 市職員の人事配置については、適材適所で適正に配置していくことが重点だと思う。公平な人事配置により、職員の勤労意欲の向上、意識改革につながる。

そのためには、事前の各課のヒアリングが重要である。今後の取り組みは。

市長 各課とのヒアリングについては、まだまだ不十分な点が多い。今後十分なヒアリングの実施を行い、これを参考にして適材適所の人事配置を行うよう努力をします。

今後の口蹄疫対策は

本石 長永 議員

質問 口蹄疫について、市として家畜伝染病に対しての対策はどのような考えか。

市長 畜産農家の防疫意識を継続して持つて頂き、一般市民の方にも定期的に思い出して頂くことが防疫の強化に繋がるのではないかと思います。

質問 防疫の強化対策として提言をしたい。畜産関係の出入りが多いJAの入口付近にセンサー付き噴霧機を設置したらどうか。

市長 設置費用等がどの位いか

るかJAと協議してみたい。

質問 口蹄疫を風化させない対策は。

市長 先ずは、畜産農家に防疫意識を高めて頂いて、一般の市民の方々にも年に一回程度は日にちの設置をして風化を防ぎたい。

質問 感染経路の徹底した調査が必要である。県・国に強く求めるべきではないのか。

市長 感染ルートについては、捜査に近いかたちでの明確な解明を県・国に求める。

質問 区、分区未加入者が20%近いが市の対策は。

市長 二十三年度に区長会と十分協議し解決に向け努力していく。

まちづくりの政策は

北園 一正 議員

質問 えびの市は昭和四十五年十二月一日市制施行以来、今年で40周年を迎えます。歴代の市長は、道路改良・ほ場整備等の建設事業、文化センター・ごみ処理施設等の社会資本整備事業で、それぞれ功績を残され、現在のえびの市があります。第十一代えびの市長の村岡市長は、少子高齢化社会を迎

えた現在、将来のえびの市を考えて、今後どのような政策を執られますか。

市長 基本的には、マニフェストに添った市政となりますが、市民と協働の街づくりを進めます。

質問 高齢化社会を迎えるえびの市では、市内循環バスの導入が必要であり、後世に残る事業になると思いますが、市長の考えはどうですか。

市長 現在検討中であり平成二十三年度半ばには、循環バスがあるいは他の方法により、導入できるように進めます。

質問 ぷらいど21助成金は市内の各団体に助成され、地域活性化に活用されています。しかし、子ども育成会・PTA等既存の団体は、規則でこの助成金は受けられない。規則改正はできませんか。
市長 別の予算で検討します。

市民に安心、安全を

井川原 志庫男 議員

質問 今回、日米共同訓練に対し何の前ぶれもなく九州防衛局から通告があったと聞くが、市民の安心安全を考えた時、首長として

防衛省に対し抗議を申し入れすべきではないのか。

市長 私が実施については決定権があるわけではないが、実施にあたって普天間の負担軽減の受け皿ではないのかとお尋ねをしたが通常の持ち回りの一環であると報告を受けた。今後正確な情報をいち早くまとめて、市民に報告を毅然とした態度で対応する。

質問 日米共同訓練まで二ヶ月半ぐらいある。市民の立場に立ち、特に畜産基地としての位置づけで見れば現場サイドは迷惑な話であり、一日中不安に明け暮れると思うが対策は。

市長 対策本部を立ち上げており本部長名で早急な地元説明会をしていく。

質問 市長は選挙公約の事業仕分けで職員の事務の効率化、職員数の削減を掲げ、効率的な市政運営をすると言う事で市民に約束されたが、事業仕分けの現状はどうのようになっているのか。
市長 来年度実施に向け対応する。

日米共同訓練はやめよ

西原 政文 議員

質問 日米共同訓練予定の海兵隊は、沖縄では少女暴行事件など非道な事件を繰り返しベトナムやイラク、アフガン等での戦争を進めてきた部隊だ。日米共同訓練は市民の安全を守るため、止めるべきだ。

市長 私が判断できる事でない。

質問 口蹄疫被害で一般業種の被害の実態調査と合わせて、農家の皆さんが安心して経営ができるように対策と支援をして頂きたい。また、カボチャを作付けしているが価格補填の対象となるか。

市長 口蹄疫被害で畜産以外の業種は被害調査をしているので昨年との比較ができる。その後、検討する。カボチャについては振興品目として苗の助成を行い、価格補填は無いが、JAがキロ200円で買い取りをしている。

質問 物産館は立ち止まる事も含め慎重に進めて貰いたい。

市長 土地が確保される見通しとなり、建設が加速すると考える。

質問 子育て支援策としてヒブワクチン助成の制度化はどのような実施されるのか。

市長 ヒブワクチン助成は検討したい。

議会報告会を開催します

「市民に開かれた議会」、「市民参加を推進する議会」を目指し、本年3月議会を「えびの市議会基本条例」を定めました。この条例には、市民の皆様への情報提供や意見交換の場を確保しようとして、「議会報告会」を開催する旨の規定を設けており、初めての議会報告会を開催することになりました。多くのおみなさまのご参加をお待ちしております。

日時

11月10日(水)・11日(木)の2日間。時間は、いずれも午後7時から2時間程度。

会場

10日

- ①飯野地区公民館
- ②えびの市役所本庁(1階会議室)

総務教育常任委員会報告

当委員会に審査付託された議案5件はすべて原案のとおり可決すべきものと、認定2件(平成二十一年度決算の認定)は原案のとおり認定すべきものと決まりました。

また、請願・陳情では、継続審査していた「永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書の提出に関する陳情書」を不採択とし、新たに「永住外国人への地方参政権付与の法制化議論に対する意見書(案)」を本会議に提出しました。

以下、議案の委員会での審査内容を抜粋してお知らせします。

①工事請負契約の締結について

この議案は、平成二十二年度霧島演習場周辺無線放送施設設置工事(相手方…日本無線(株)宮崎営業所、契約金額…1億8千480万円)について、予定価格が1億5千万円以上の請負契約を締結するには、議会の議決に付さなければならぬことから、提案されたものです。

Q…この事業は、平成二十一年度

から防災行政無線のデジタル化を進めているものだが、本年度のこの工事請負契約の内容は。

A…本年度は、46基の屋外子局を整備するものです。

Q…事業全体が完成するのは。

A…当初、平成二十六年度を予定していたが、追加配分があったため、平成二十五年度完成を予定している。

Q…入札には市内業者の指名があったのか。

A…専門的な工事となるため、市内業者の指名はなかった。

②平成二十二年度一般会計予算の補正について

Q…第5次えびの市総合長期計画策定に伴う補正予算の説明を。

A…現在の第4次計画は二十三年度までだが、その前段で市民アンケートの実施(郵送料…54万4千円)やその集計、分析のほか基礎資料を収集(委託料…249万4千円)するものです。

Q…アンケートの対象者数は。

A…市民3千人を予定している。

Q…物産館等建設予定地として土地購入費1億円を計上した経緯は何か。

A…永山地区のサンロードが進出予定していた土地で、藤田(株)(球磨郡錦町)所有。所有者からこの土地がえびの市の活性化に役立つなら売却しても良いとの申し出があったもの。面積は1万3千55㎡である。市の市有財産審査委員会でも協議し、購入を決定したものだ。

Q…当該土地には、抵当権等はないか。

A…調査済みであり、抵当権の設定はありません。

Q…ライスセンター隣接地への建設は無くなるのか。

A…当該土地に物産館等を建設するものです。

総務教育常任委員長 池田 孝一



物産館等建設予定地(永山地区)

・11日

①上江地区公民館

(上江地区体育館内)

②真幸地区体育館

(集会室)

■内容 議会基本条例の主な内容、9月定例市議会の報告および質疑応答
■問い合わせは、議会事務局(内線361)へ。

採択した意見書等

霧島演習場における日米共同訓練に関する決議

えびの市においては、平成二十三年度に陸上自衛隊第24普通科連隊えびの駐屯地創立三十年、海上自衛隊超長波(VLF)送信所創立二十年の節目を迎える。

これまで市民と自衛隊とは友好な関係であり、共存共栄を目指してきている。そのような中で、えびの駐屯地創立当時の部員数1200名は、現在約650名(熊本より移駐の第8特科連隊第3大隊約300名を含む)となっており、コア化による駐屯地存続が危ぶまれ、「えびの駐屯地存続・増員増強期成同盟会」が発足し活動を展開している状況である。

しかるに、先日九月七日に九州防衛局企画部長が来訪し、事前の相談協議もなく、突然一方的に日米共同訓練の通告をされた。我々議会としては大きな義憤を感じるとともに、自治の存在意義を疑わざるを得ない。

昭和六十二年八月に締結した「海上自衛隊超長波(VLF)送信所設置に伴う覚書」に謳われている海上自衛隊中央システム通信隊えびの送信所の特定防衛施設指定や国有提供施設等所在市町村助成交付金の対象にすること、市道えびの中央線の整備の実現は未解決のままになって

いる。市議会では、毎年繰り返し、防衛省や関係当局に解決への要望陳情活動を継続しているが、二十年以上経過してもいまだに国は具体的な解決策を講じていない。また、自衛隊の通常訓練に加え、日米共同訓練が実施されることにより、これまでの採草等の入会権がさらに阻害され、近辺の畜産農家に与える影響は甚大なものがある。よって、霧島演習場使用協定書の見直しを早急に行う必要がある。

今回の霧島演習場での日米共同訓練は、十二年前の訓練を取り巻く情勢と大きく変化した中でのものであり、沖縄米軍普天飛行場の移設やこれと併せて進めようとする米軍の訓練の本土への移転・分散化、自衛隊基地施設の共用・固定化を招くことになるのではないかと、強い疑念や危惧は、依然として払拭されていない。

以上のようなことから、えびの市議会は今回の日米共同訓練の実施は受け入れられないことを決議する。

平成二十二年九月十七日

宮崎県えびの市議会

永住外国人への地方参政権付与の法制化議論に対する意見書

国会において、永住外国人への地方参政権の付与について、法制化を図るといふ動きが見られている。

永住外国人への地方参政権の付与は、民主主義の根幹に係る問題であるとともに、とりわけ地方自治のあり方に重大な影響を及ぼす問題であることから、当然のこととして地方の意見が重視されるべきものと考えらる。

今日、我が国はかつて経験したことのない人口減少化を迎えており、地方はそれに伴う様々な新たな問題を抱える状況にある。

よって、永住外国人への地方参政権の付与について具体的な議論を始める場合には、国民の幅広い議論を喚起しつつ、地方の意見を十分に聞くよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成二十二年九月十七日

宮崎県えびの市議会

市立病院に 医療機械器具を導入します

市立病院の医療機械器具の老朽化に伴い買い替えるもので、平成二十二年国民健康保険調整交付金(直営診療施設分)を国民健康保険特別会計により、262万5千円を事業費の一部として補助金を受けるものです。



● 今回の医療機械器具購入の無影燈は、昭和五十三年六月に手術室に設置されたもので、三十二年経過しているため更新し、手術室の照明をより明るくするものです。

● ベッドサイドモニタリングシステムは、十三年経過しているため更新し、手術中の患者の心臓波形を映し出す機器で患者の状態を知ることのできるものです。

● 解析付心電計は、七年経過しているため更新し、入院患者の心臓波形を図るものです。

● 上部消化管用経鼻システムは、新規(2台目)で、患者の負担軽減を図るため、鼻から挿入する内視鏡です。事業総額1011万7千800円。今後、より一層、診療の効率化につながることを期待されます。

〔下記を参照〕

対象種目	対象事業費 円	品名	補助基本額 円	補助金額 円
医療機械器具	4,257,750	無影燈	7,875,000	2,625,000
	1,870,050	ベッドサイドモニタリングシステム		
	1,890,000	解析付心電計		
	2,100,000	上部消化管用経鼻システム		
計	10,117,800		7,875,000	2,625,000

〈お詫の〉
7月号の9ページ「国際交流センターの指定管理者の指定について」の中で、同施設内のレストランはどのようなか問いに對する答弁で、「この法人が」となっている部分を、「この法人も加入するべきのナチュラル推進協議会が」に訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

えびの市は、飯野・加久藤・真幸町の3町合併を経て、今年十二月一日市制施行40周年を迎える。

町制時代の昭和四十三年のえびの地震・市制施行後の昭和四十七年の西内・山津波など、幾多の災害に遭ってきた。そして今年、市民に大きな衝撃が走り、市の経済に打撃を与えた家畜伝染病「口蹄疫」が発生した。しかし、いずれも災害対策に市民一丸となって取り組み、復興に努めてきた。

本市は、平成の大合併では自主自立の道を選択している。全国的に人口減少社会の時代に入った現在、市の人口2万1千人を、最低限の減少におさえる政策が求められる。

先日、上江小・中学校の合同運動会に参加する機会があった。児童生徒の減少により、合同運動会となったもので、今年で第5回の開催となる。

当初は、運営に苦労したとのことであったが、小規模校ならではの特性を活かした、児童生徒と地域との連携による活気のある運動会で、小さくてもやればできると感じた。

えびの市も、活気のである元気な「まち」に発展してほしい。

編集委員 北園 一正